

4 その他

[信濃委員]

- ・岩見沢農業高校には、環境計測に関しても、是非とも自前でトライしてもらいたい。

[小島委員]

- ・高校の工業の教員が不足していると聞く。多角的なものづくりスキルを身に付けた人づくりの中に、教育者の養成という視点も加えられないだろうか。室蘭工業大学では創造工学科に入学した場合、高校の工業の教員免許を取得することが可能となる。高大連携の中で何らかのお手伝いはできるかもしれない。

[岡部委員]

- ・コロナ禍の影響が続く中で、昨年度は実施が困難であった両校間の情報収集、意見交換の場が可能な限り設定されていることは高く評価できる。最終年度に向け、成果発表会（遠隔手法の使用も含め）等を通して両校の間で取組の成果を共有し、地域に発信していくことが期待される。

[百瀬委員]

- ・産学官が協働して次世代の人材育成を推進していることに、経済界としても感謝する。

[築城委員]

- ・両校とも各界の専門家からお話を伺いながら取組を進めていることは、大変参考になる。また、アンケート結果からも十分な知識の習得や課題を見付ける力が向上していることを察する。今後も検証や討論を深めて、研究が前進することを祈念している。

[飯田委員]

- ・農工連携の取組は、本事業にとどまらず、継続して行う仕組みを作してほしい。

[井之口委員]

- ・会員である地方協会と当協会が連携して取り組んでいる現場見学会や「第一種酸素欠乏症に係る特別教育」講習会などの実施に当たっては、両校に積極的に御協力をいただき、心から感謝を申し上げます。こうした取組により高校生の入職が一層促進されるなど、建設業界の人材確保に大きく寄与しているものと受け止めており、引き続き御協力を願う。

[竹中委員]

- ・初めての試みである工業・農業のコラボレーションの真の目的は、技術的成果の追求のみではない。題材は何にせよ、両校の生徒の交流によって何が成果として得られるか、これまでにない形で姿が見えてくるのが楽しみである。

[和泉委員]

- ・普段の授業では学ぶことが難しい専門的な事項や他分野の課題などに触れること、先輩をはじめ同世代との交流を楽しく行える本事業は、お互いの生徒にとって大きな効果をもたらすと考える。是非、継続して実行していくことを望む。